

<p>20 日 (日)</p> <p>ダニエル 7章</p>	<p>「諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はことしえに続き、その統治は滅びることがない」(14節)。神の幻は、その定められた時までは沈黙する。どの答えが正解で、どの答えが誤りなのか、それは、主の時までわからない。人の口で判断することはできないが、主が真実な幻を示してくださる。</p>
<p>21 日 (月)</p> <p>ダニエル 8章</p>	<p>「ダニエルは(中略)この幻にぼう然となり、理解できずにいた。」(27 節)。神が示される幻は、ときに理解に苦しむ。ダニエルは、一人その預言を心に収めたが、その苦しみはいかほどか。今わたしたちに与えられている幻はどんなものだろう。主の幻を心に留める勇気を、主なる神が与えてくださることに期待する。</p>
<p>22 日 (火)</p> <p>ダニエル 9章</p>	<p>「ダニエルよ、お前を目覚めさせるために来た」(22 節後半)。主の幻を見いだせずダニエルは、悔い改めの祈りをささげる。主のみ心を祈り求めながらも、苦しむわたしが、嘆きながら祈るとき、主は言葉を与えてくださる。主の前に「ひざまずき」祈るわたしとされたい。主よ、憐れんでください</p>
<p>23 日 (水)</p> <p>ダニエル 10 章</p>	<p>「恐れることはない。愛されている者よ、平和を取り戻し、しっかりしなさい」(19 節)。先の見えない未来に苦しむ。受け入れがたい幻を理解しようと力奪われる。しかし、対話を望まれる主は、わたしたちに力を与え、愛を与え、平和を与えて、わたしたちを励ましてくださる。</p>

聖書日課 『からし種』 2018. 5. 20～ 5. 27

<p>24 日 (木)</p> <p>ダニエル 11 章</p>	<p>「これらの指導者の何人かが倒されるのは、終わりの時に備えて練り清められ、純白にされるためである。まだ時は来ていない」(35 節)。主の伴いがあっても、わたしたちは終わりの時まで、練り清められ、純白にされ続ける必要がある。戦いの歩みの中、わたしたちは主の清さを忘れてしまうから。</p>
<p>25 日 (金)</p> <p>ダニエル 12 章</p>	<p>「その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する」(1 節)。わたしたちの歩みは決して楽しいだけのものではない。ダニエルは主の幻を見つめ続けた。どんなに苦しく、孤独を感じても、主が約束してくださる終わりの時を待ち望む信仰を持ちながら、主の幻に期待し続けた。</p>
<p>26 日 (土)</p> <p>ホセア 1 章</p>	<p>「ユダの家には憐れみをかけ、彼らの神なる主として、わたしは彼らを救う」(7 節前半)。ホセアの預言はバアルを礼拝するイスラエルの民に語られる。他の神を礼拝するイスラエルの民を主なる神はホセアとその家族を通して、愛と憐れみを示される。</p>
<p>27 日 (日)</p> <p>ホセア 2 章</p>	<p>「そのところで、わたしはぶどう園を与え、アコル(苦悩)の谷を希望の門として与える」(17 節)。偶像の神を慕い離れられないイスラエルを、神はあえて荒れ野に導き、その心に語りかけるといふ。荒れ野は苦悩の場所だが、わたしたちを愛してやまない真実の神が、苦悩を希望に変えてくださる場所なのだ。</p>